

平成 24 年度 岐阜総合学園高等学校 自己評価

(○：成果 ▲：課題 ※：来年度に向けての改善策)

1 学校経営

自己評価 A **B** C D

- 部活動において、ホッケー部男子の国体優勝、弓道部女子団体の高校総体および国体への出場、マルチメディア部の文部科学大臣賞受賞など、多くの部で好成績を残した。また、飛び専事業、資格試験、検定試験、コンテストなどに積極的に取り組み、その成果を進路実現に生かすことができた。
- クラス増、理数先行の新教育課程編成、入試制度の変更などに対応しながら、大きな混乱なく学校運営を進めることができた。
- 模擬試験の学年実施、産社の見直しなどキャリア教育および系列学習を充実することができた。総合学科全国大会ではその成果を発信することができた。
- ▲部活動と勉強の両立、特に家庭学習の習慣化が課題である。
- ※来年度入学生より新教育課程が全面実施となる。この機会に産社および総合学習のコンテンツを改善し、総合学科ならではのキャリア教育を更に推進する。
- ※50周年記念事業に取り組みながら、明るく元気なあいさつ、凛とした身だしなみ、活発な部活動など、社会から望まれる人間性を育成する教育をより一層推進し、それらの成果を積極的に発信していく。

2 教務部

自己評価 A **B** C D

- 系列の特色を生かした指導の成果が資格・検定取得状況等に表れている。
- 履修科目について十分に検討し、新教育課程を決定することができた。
- 相互授業参観・授業アンケートの実施、教科会での意見交流などにより、授業改善への意識を向上させることができた。
- 校外での出前授業を企画しHPに掲載した。依頼のあった中学校で授業を実施し系列学習の魅力を伝えることができた。
- ▲各考査期間に家庭学習時間を記録させたが、それを活用し、家庭学習時間を増加させるような働きかけが十分ではなかった。
- ※家庭学習時間調査の実施方法、課題の量と質、および評価法を改善し、家庭学習の習慣化を図る。
- ※相互授業参観、授業アンケートを継続し、教科指導力の向上に努める。特に「言語活動の充実」を意識した授業改善を推進する。
- ※メールマガジンの読者、ホームページの来訪者を増やす。関心をもってもらえるように工夫しPRする。

3 進路指導部

自己評価 (A) B C D

- 今年度は、福井大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、愛知教育大学教育学部、国際教養大学国際教養学部、岐阜県立看護大学看護学部の国公立大学に5名の生徒が進学する。今まで進学実績のない豊橋技術科学大学や国際教養大学に挑戦し見事合格することができた。これは、系列や教科等の継続的な指導で生徒の能力を大きく伸ばすことができた結果である。
- 今年度の新たな取組みは、2年次生の系列毎の進路学習を支援するために、総合学習に系列学習の時間を設定したことである。必要に応じて模試を受験させたり、資格・検定の学習をさせたりして系列によって特色のある指導ができた。また、昨年度より実施している3年次生の校内実力テスト・就職模試は軌道に乗り、生徒の学習意識の向上のよい切っ掛けとなっている。
- 今年度校外模試について、1年次生には初回（7月）を全員に、2・3年次には各模試毎に系列で指定をして受験させたが、結果を見て学習習慣・姿勢を改善する生徒は少なく、自分の学力把握にとどまっている生徒がほとんどである。
- ※キャリア教育の推進を進路指導部を中心に系列・年次・教科に呼びかけ進めて行きたい。また、出口指導については、進路希望が自分の学力で実現可能なのか、あるいは適性があるのかを、模試の結果や卒業生の可否結果等で客観的に判断させる。また、その後の進路学習に対する取組みを考えさせ、より現実的な方法を生徒に加えHR T・系列・部顧問・進路指導部等で立案し実行させたい。

4 生徒指導部

自己評価 A (B) C D

- 全校一斉登校点検や校門での挨拶運動を通して、本校としての身だしなみ挨拶などが徐々に良くなってきている。また、遅刻数も大幅に減少し良い傾向である。その反面、交通事故件数が激増した。交通ルールの厳守・通学マナー・携帯使用マナーに対して希薄さが感じとれる。
- 問題行動ではテスト回答の改ざんが増えた。授業の大切さやテストの重要性に対して甘く考えているのではないか。
- ▲交通事故防止のため、継続的な啓発活動・呼びかけ等の強化を図り、交通事故の減少（ゼロ）に向けて様々な啓発を講じる必要がある。
- ▲授業規律およびテストの重要性を認識させる。
- ※ロッカーの施錠など、自己管理することについては良くなり、校内における盗難は減少した。しかし、交通事故激増・携帯電話不正使用者激増の現状を考えると、今まで以上の啓発活動が必要であろう。
- ※交通安全委員会やMS Lの活動（生徒からの啓発）を多く計画する。また、携帯電話不使用者の指導内容の改定について検討する。
- ※授業の大切さを認識させるためにも、授業開始時の挨拶の励行・服装チェックをし、授業に向かう姿勢からしっかりとさせる強化週間を定期的（毎月1回）に実施する。

5 特別活動部

自己評価 (A) B C D

- 生徒一人一人が、学校行事や、委員会活動、部活動などの諸活動において、意義を見だし、積極的に取り組む姿勢が、学校の活力となることができた。
- 部活動を中心に、各種委員会、系列などにおいて、生徒が、主体的に活動し、その結果、数々のコンテスト、コンクール、東海大会、全国大会などで結果を出した。
- 今年度1年次生の部活動定着状況は良かった。特別活動部、部顧問、HR担任との連絡、連携を登録カードを使い保護者懇談などにフィードバックできた。
- ▲諸活動において、さらに学校への規範意識と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培うことが課題である。
- ※それぞれの活動における学校への規範意識の向上と、奉仕する心の育成、活動のより明確な目的意識の設定と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培う。
- ※部活動への取り組みについては、新入生に対してのオリエンテーションの在り方、本登録後の活動状況など、特別活動部、部顧問、HR担任との連絡、連携についてより効率化を目指し、生徒一人一人に合った指導方法、援助について研究する。
- ※生徒会活動においてより積極的に参加できるように生徒会役員選挙から生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ、活動を通して協調性、規範意識を高める姿勢を培う。
- ※保護者、地域の方々により生徒の活動を理解して頂けるよう、より良い広報活動の研究。

6 保健厚生部

自己評価 (A) B C D

- 集団行動では、担当職員が早い時間から指導を始め、生徒も素早い行動が出来た。新体力テストでは、今年度も良い成績であった。
- 保健室の利用において、怠学傾向の生徒利用もなく適切であった。
- AED講習会では、心停止事故が発生した時、至急対応できるように、職員とスポーツ科学系列の生徒が受講し修了証を受けた。
- ▲ゴミの出し方(分別)、飲食ゴミの放置、ガムの吐き捨て等、一部マナーの悪い点が見受けられた。
- ※今年度は概ね良い活動・実施状況であったので、来年度も今年度同様、活動・実施していきたい。
- ※ゴミの分別、放置、ガムの吐き捨て、マナーについて注意していきたい。

7 渉外部

自己評価 A (B) C D

- 会員との連携をより進めたことでPTA研修、学園祭・耐寒競歩大会でのPTAバザーにおける参加者が増えた。
- ▲PTA総会により多くの人に参加できるように進める。
- ※今年度は、概ね良い活動や実施状況であった。来年度も今年度同様な活動を実施していきたい。

8 図書部

自己評価 A B C D

- 昨年度と比較し、更に充実した朝読書が実施できた。
- 図書館で読書に親しむ生徒が多くなるとともに、貸出冊数も増加した。
- 読書指導の一環である「読み語りの会」の参加者が増加し、盛況であった。
- ▲読書に興味関心のない生徒や読む習慣が身につけていない生徒への対応。
- ▲読書感想文コンクールへの積極的な取り組みについての対策。
- ※読書に興味・関心のない生徒に対しては、折に触れて職員全体で読書の意義を説くとともに、人間関係を大切にしながら継続的に指導していく。
- ※通年朝読書は課題もあるが、反省を参考にして充実発展させ、本校の誇る伝統行事にしていきたい。
- ※読書感想文コンクールについては、安易な態度で書かれた感想文があった。来年度は各クラスで趣旨を十分に説明するなどの対策を取る。

9 1年次

自己評価 A B C D

- 「産業社会と人間」の授業を通して自己を様々な角度から見つめなおすことができた。特にインターンシップや先輩の話、進路講話、ライフプランの作成は、自分の将来を真剣に見つめ直す良い機会となった。
- 科目選択では教務部、進路指導部、教科、系列と連携を取って生徒の将来に合った指導ができた。
- 落ち着いた学校生活を送ることを目的とする朝の10分間読書に、落ち着いて取り組ませることができた。
- ▲携帯指導を受けた生徒、交通事故の件数が多かった。『生命の尊さや規律のもつ意味を理解させ、社会規範を遵守する態度を育成する。』という年次としての具体的な取り組みを真摯に追求する必要がある。
- ※総合学科の特徴である科目選択では、担任をはじめとし各分掌・教科・系列など多くの先生の指導により、生徒は幅広い視野で考え自分の進路を明確にすることができた。また、産業社会と人間の科目では1年間を見通した計画に基づき実施し、生徒自ら自信を持ったライフプランの作成ができた。今後さらに年間計画の見直しを進め、よりよい指導を行うことができる計画を立てる必要がある。
- ※生活指導では早期発見、早期対処の姿勢に加えて、全職員の情報の共有を今後も進めた方がよい。
- ※交通事故等の件数を減らすためにも、生命の尊さや規律のもつ意味を理解させるための活動をきちんと進める必要がある。

10 2年次

自己評価 A **B** C D

- 自ら選択した系列学習に積極的に取り組み、資格試験へ果敢に挑戦し、また外部模試にも多く参加し、進路希望実現へ大きく踏みだした。
- 多様な悩みを抱えている生徒へは、担任、年次会、教育相談係、部顧問その他との連携により、問題解決に向けて個々に合った指導助言を行なうことができた。
- ▲生徒への各種指導において、各分掌の事前の連絡を密にすることができず、各種調査やアンケートなどに意義を持って取り組ませられなかった。
- ▲諸行事への積極的・自主的参加は、総体としては成果が見られるが、個々人が意識的に行えるような指導ができたとは言い難い。
- ※主体的行動の確立を標榜するだけではなく、いかにして確立させるか。進路実現、諸行事への取り組み、最後の一年間の取り組みなど、個別の目標と計画をしっかりと立てさせ、また個人でスケジュール管理や計画の進捗状況把握ができるよう、適切な助言をしていく必要がある。

11 3年次

自己評価 A **B** C D

- 生徒と担任、系列担当者との個人懇談を充実させて生徒の進路希望を的確に把握し、生徒の希望に添うような進路指導ができた。
- 継続的な活動の結果、各種大会において優秀な成績を収めることができた。
- 諸般の事情で集会の回数は少なかったが、HRでの指導で年次の意思を伝達できたことで、集団への帰属意識、また集団の一員として協調性、良識ある行動の大切さなど、問題意識を喚起しつつ意識させることができた。
- ※進路決定後に、生徒の学習意欲や目的意識の低下が一部見られた。それが生活のリズムや態度の乱れにつながる場合もあるので、最後まで緊張感を持って生活させるために、生徒個々の進路に合わせて系列ごとで課題を設定し、内定後の学習について個々に観察していく必要がある。
- ※系列別及び進路を考えたクラス編成を基本としたが、昨年度より系列分割数を少なくした上で、男女の割合をなるべく近付け、また人間関係も配慮したクラス編成とした。このことで系列別クラスの意識も高まり、進路指導面での統一感も出てきた。3年次のクラス編成についてはあらゆる面から検討し、さらによりよいクラス編成をする必要がある。